

News 産業・技術

東芝、鹿児島で風力発電所が竣工－2000kW2基を整備

2015/11/16 **NEW**

東芝は13日、風力発電事業を手掛ける子会社のシグマパワー・ジャネックスが鹿児島県長島町で運開させた「新長島黒ノ瀬戸風力発電所」の竣工式を同日開催したと発表した。同発電所は出力2千キロワットの風力を2基備える。東芝は2011年に韓国ユニスンと資本提携し、風車発電機器の開発・製造事業に参入。台風が多い日本特有の気象や、日本の耐雷基準に対応した風車の開発を進めてきた。今回はユニスンが製造した発電機を採用。ユニスン製発電機を東芝が日本仕様に改良したため、東芝ブランドの風力が運開するのは初めてとなる。

同発電所の着工は14年8月。15年3月末に運転を開始していた。東芝は13年から、九州大学応用力学研究所の内田准教授と共同で、発電量を最大化し、風車を安全に運転できる設置位置を決める風況解析手法を開発している。今回の風力発電所では、多数のセンサーを風車などに設置。長期間収集している風況データとあわせて解析手法を検証してきた。今後、東芝は開発した風況解析手法を風車の設置検討に活用していく。

(4面)